

西栗倉小だより

～ 自信 チャレンジ つながり 自分みつめ ～

令和7年3月14日 NO. 13



残していきたい西栗倉小の伝統

この1年、西栗倉小学校の児童を見てきて、これからも残していきたい伝統があります。

先日、こんなことがありました。

登校途中、1年生が転んでしまいました。ずいぶん痛かったのでしょう。1年生は泣いてしまいました。一番後ろにいた5年生が、すかさず、声をかけに行きました。すると、先頭にいた6年生も近寄ってきて声をかけていました。少し距離があって、会話が聞き取れなかったのですが、「大丈夫?」と言っていたように見えました。登校班の全員が、転んだ1年生を励まし、1年生は泣きながらも、ちゃんと歩いて学校に着くことができました。

もう一つ。西栗倉小学校前の横断歩道を渡るとき、登校班の先頭が信号のボタンを押します。そのとき、車が近づいていないかどうかを確かめています。安全面のこともあるでしょうが、忙しく出勤されている運転手さんの足を止めない配慮でもあるのです。それでも、赤信号に代わると横断歩道の手前で停車する車があります。班長と副班長は横断歩道を渡り切ったところで待っていて、車が動き出すと、きちんとお辞儀をします。

以上の2つは、わが校の良き伝統です。「思いやりの心」「相手を気遣う心」「感謝する心」この精神が西栗倉小学校には脈々と流れています。

今、6年生がバトンを渡し、次の高学年が、班長の役割をしています。6年生の残してくれた伝統をしっかりと受け継いでいってほしいです。

6年生親子給食と6年生を送る会



3月6日（木）は6年生の保護者の皆さんとの親子給食でした。小学校の最後の思い出にと企画されたものです。親子で食べる給食は格別だったことでしょう。

保護者の皆さんからは「給食が懐かしく、おいしかった」「もっと食べたかった」「子どもと給食を食べられることに感謝したい」などの感想をお伺いしました。

6年生は日頃の食事のマナーを保護者の方に見られることで、少し気を遣う面もあったようですが、照れながらもうれしげに食事をしていました。



続いて、6年生を送る会がありました。6年生にくす玉を割ってもらってからのスタートでした。各学年からの出し物に続き、在校生から6年生へのプレゼント渡しがありました。学年末でいろいろなことをする中での準備は、どの学年も大変だったと思います。それでも、6年生のためにと、どの学年も工夫をこらし、準備や練習をしてきました。きっと、6年生に感謝の気持ちが通じたことでしょう。

6年生の皆さん、本当にありがとう。

それから、この会の企画や準備や当日の進行をしてくれた5年生の皆さん。お疲れさまでした。